

# 主 論 文 要 旨

報告番号	① 乙 第	号	氏 名	勝 又 雅 裕
主 論 文 題 名				
Rivaroxaban Promotes Reduction of Embolus Size within Cerebrocortical Microvessels in a Mouse Model of Embolic Stroke (リバーロキサバンによる脳塞栓モデルマウスにおける脳微小血管内塞栓の縮小効果)				
(内容の要旨)				
<p>Direct oral anticoagulants (DOACs) による心内血栓に対する線溶効果の報告が散見される。我々はこれらの抗凝固薬が頭蓋内においても線溶効果を発揮するのではないかと考察した。本研究は我々が開発したマウスのフィブリン塞栓による微小脳塞栓モデルを用いて、リバーロキサバン (DOACsの一種) による塞栓に対する影響を観察評価したものである。フィブリン塞栓モデルマウスは、Ex vivoに作成されたフィブリン塞栓をC57BL/6マウスに総頸動脈より経カテーテル的に動脈注射したものとし、頭窓を通じて脳微小血管内の塞栓を観察した。リバーロキサバンは塞栓投与の1週間より経口 (混餌) 投与開始とした。塞栓投与直後と投与3時間後の塞栓面積を、リバーロキサバン投与群 (n=6) と非投与群 (n=7) で観察した。血管の再開通率、及び塞栓面積の変化率について比較検討を行った。血管の完全再開通はリバーロキサバン群のみにおいて認められた (リバーロキサバン投与群 n=3 vs 非投与群 n=0)。塞栓面積は非投与群と比較しリバーロキサバン投与群で有意な縮小 を認めた (p=0.0216)。</p> <p>Thrombin-antithrombin III complex、D-dimer、plasmin-<math>\alpha</math>2-plasmin inhibitor complexなど血液中の凝固マーカーはリバーロキサバン投与群と非投与群で有意な差を認めなかった。リバーロキサバンは脳塞栓症における微小血管内の塞栓を減少する可能性が示唆された。</p>				